

令和7年度 学校評価書

評価基準

4、A（期待以上…8割以上） 3、B（ほぼ期待通り…5～8割） 2、C（期待を下回る…2～5割） 1、D（改善を要する…2割未満）

都城市立西中学校

			R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7				
本年度の重点目標		評価項目	生徒	生徒	生徒	保護者	保護者	保護者	教師	教師	教師	学校の自己評価コメント	自己評定 (総合)	学校運営協 議会評価	学校運営協議会コメント
豊かな心の育成	命を大切にし、感謝の気持ちを育てる。	① 生徒の悩みや相談に適切に対応している。	3.2	3.3	3.3	2.8	3.0	2.9	3.1	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ●「ありがとう」の励行と学校生活の充実 ・生徒自己評価では、「ありがとうの気持ちを伝える：平均3.6」や「楽しく学校に通っている：平均3.5」が非常に高く、肯定的な姿勢が見られる。 ・教職員も「生徒の悩みや相談への適切な対応：平均3.2」を意識しており、生徒側の一定の信頼：平均3.3もある。 ●相談体制と人間関係への課題 ・記述回答の中では、人間関係の悩みに「もっと親身に聞いてほしい」「聞き入れて終わりではなく、その後の状況もしっかり見てほしい」との要望もあり、保護者・生徒双方から挙がっている。生徒一人ひとりに寄り添った誠実な対応が求められている。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動やボランティア活動への積極的な参加は高く評価できる。 ・「スポーツゴミ拾い大会」等の先進的な取組は継続してほしい。 ・次年度の新学期による清掃時間短縮に伴う環境美化意識の低下や、親子奉仕作業の保護者参加率減少が懸念される。子どもたちにとって、一番身近な保護者の意識は影響が大きく、勤労奉仕の心を育てる意味合いで姿勢で示していただくことが望ましい。 ・道徳授業の充実と共に、生徒が本音を話せる環境づくり、家庭の教育力向上への啓発に努めていただきたい。
		② 生徒は、ありがとうの気持ちを進んで示している。	3.6	3.7	3.6	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9				
		③ 生徒は、楽しそうに学校に通っている。	3.3	3.5	3.5	3.1	3.2	3.1	3.0	3.0	3.1				
	清掃や奉仕活動等を家庭で体験させる。	④ 生徒は、家庭で清掃や手伝いをし、きれいな環境で生活できている。	3.3	3.4	3.3	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.8				
		⑤ 生徒は、親子奉仕作業や清掃活動に参加している。	2.3	3.6	3.6	2.6	2.7	2.7	2.9	2.7	2.7				
基礎的・基本的な生活習慣の定着	規範意識を身に付けさせる。	⑥ 生徒に校則や社会のルールを守る指導ができています。	3.5	3.7	3.6	3.0	3.0	3.1	2.9	2.9	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ●規範意識と清掃活動の継続 ・「校則やルールの遵守：全校平均3.6」や「清掃活動への真剣な参加：全校平均3.6」は生徒・教職員ともに高い評価を維持しており、本校の良き伝統が継承されている。 ・一部記述から、「なぜこの校則が必要なのか」という疑問や、先生による指導のばらつき、時間を守ることへの不信感も指摘されている。 ●あいさつと提出物の定着 ・「あいさつの実践：平均3.4」や「提出物の期限遵守：平均3.3」は概ね良好だが、学年や個人差が大きい。 ・教職員間では、「期限遵守の意義を理解させる指導」の必要性が昨年度に引き続き課題として認識されている。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒の規範意識は高く、特に校外でのあいさつは極めて良好であるが、個人差もあるのでその課題解決に向けてさらに手立てを講じてもらいたい。 ・校則の見直しについても、生徒が主体的に考え納得感を高めるプロセスを評価したい。 ・今年度は、登下校の見守りについて、保護者や地域、警察の協力もあり一定の成果が見られるが、命に関わることなので継続して登下校時の交通ルールの遵守の意識づけをお願いしたい。 ・提出物の期限厳守といった社会生活の基礎を徹底する必要がある。年齢層による価値観の差を念頭に、学校・家庭・地域の三者が連携した指導の継続を求めたい。
		基本的な生活習慣を身に付けさせる。	⑦ 生徒は、時間を守って行動することができている。	3.5	3.6	3.5	3.1	3.1	3.1	2.7	2.9				
	⑧ 生徒は、あいさつは「いつでも、どこでも、自分から」を実践できている。		3.4	3.5	3.4	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.6				
	⑨ 生徒は、提出物を期限内にきちんと提出できている。		3.3	3.3	3.3	3.0	3.0	2.9	2.5	2.7	2.8				
学習意欲の向上	確かな学力の定着を図る。	⑩ 生徒は、基本的な学習習慣を身に付けている。	3.1	3.2	3.2	2.6	2.6	2.6	2.5	2.6	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の工夫と学力への不安 ・「授業の分かりやすさ」や「個に応じた指導」の数値は3.2程度と一定の評価を得ているものの、記述回答では「分からない」「進捗が早すぎる、または遅すぎる」といった意見も見られた。 ・少人数授業の活用や、授業内での机間巡視、ペア学習の強化など、より個別最適な学びへの工夫が期待されている。 ●家庭学習習慣の確立と宿題への要望 ・「家庭学習の意欲：平均2.9」は全カテゴリーで最も低く、保護者からは「宿題を積極的に出してほしい」という声が寄せられている。 ・「検定試験：平均2.2」や「校内コンテスト：平均2.6」への挑戦意欲が低迷している。また、学校での受験を求める声もあるが、今後は全国的にWeb受験ができる流れもあり、そちらの啓発も必要である。 	B↓	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期の取組では、AI（Qubena）の活用の活性化（市内で3位の活用率）など、学校側の創意工夫が見られた。今後も、キュビナブーストウィークの工夫改善を通して、学力向上につながるAIドリルの活用を求める。 ・保護者からの要望も多く、家庭学習の充実が課題であるが、一部声の上がっているかつての一律の宅習、ペナルティーなどの指導ではなく、今後は、タブレットを活用した習熟度別の課題の提示など、より個に応じた与え方を工夫していただきたい。 ・家庭学習の習慣化が鍵となるが、これは家庭の責任も大きい。宿題のあり方の工夫や、家庭でのルールづくり、学んだことを親に説明する「アウトプット型」の学習推奨など、保護者の意識変革を促す働きかけが必要である。 ・基礎学力の定着を図り、生徒が将来の夢や目標を持つよう、キャリア教育との連動を期待する。
		⑪ 生徒が分かりやすいように、授業を工夫している。	3.2	3.3	3.2	2.7	2.8	2.8	2.8	2.9	3.0				
		⑫ それぞれの生徒にあった指導の工夫をしている。	3.2	3.3	3.2	2.6	2.7	2.6	2.9	3.0	3.1				
		⑬ 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。	2.9	3.0	2.9	2.4	2.4	2.4	2.1	2.2	2.2				
	学習意欲の向上を図る。	⑭ 生徒は、漢字検定、英語検定など検定試験に意欲的に参加している。	2.3	2.3	2.2	2.4	2.3	2.2	2.8	2.8	2.6				
		⑮ 生徒は、校内の漢字コンクールなどのコンクールに意欲的に取り組んでいる。	3.3	3.1	2.6	2.7	2.4	2.3	2.9	2.5	2.6				
学校運営との連携や地域社会	ボランティア体験学習を積極的に推進する。		3.4	2.6		2.8	2.5		3.1	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ●外部講師の活用と地域行事への参加 ・「外部講師による授業の有用性：平均3.4」は高く評価され、専門性の高い知見を導入する取組は効果を上げている。 ・「ボランティア活動や地域行事への参加：平均2.6」は生徒間で温度差があり、地域社会の一員としての意識を高めるための積極的な啓発が必要である。 ●保護者への情報発信と連携の強化 ・「学級便り等による家庭への伝達：平均3.2」は一定数評価があったが、「情報提供が遅い」といった意見もあった。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事やボランティアへの参加は活発で、二極化の課題はあるものの地域からの評価は非常に高い。 ・働き方改革（部活動改革含む）については学校単独での解決は難しく、市全体での歩調を合わせた推進が不可欠である。 ・教職員の負担軽減を図りつつ、探究学習等を通じて地域ボランティアを教育課程に位置づけるなど、持続可能な連携体制を社会全般で構築していきたい。 	
	地域と連携した教育活動の推進	3.4	3.3	3.4	2.8	3.1	2.8	2.7	2.8	2.9					
	家庭や地域へ情報を積極的に発信する。	3.2	2.6	3.2	3.1	2.6	3.2	3.5	3.3	3.4					